



コーヒー始めました

信州大学の金先生からバトンを引き継ぎました、山梨大学の植田と申します。さて、リレーエッセイには何を書くのか？「日々の生活の中で体験する楽しいことや自分の趣味を分析化学にからめて…」とのこと。趣味とは“休日に自ら進んで行っていること”，と昔に言われたことがありますので、土日に掃除や料理を行う私の趣味は家事ということになってしまいます。趣味は無くても生きてはいけますが、楽しみなことがある方が仕事も頑張れると思います。また、私自身は大した趣味が無いくせに学生には就職活動で困らないように（可能であれば少し目を引くような）趣味があった方が良くと伝えていきます。

最近、私の同僚である友人が新しい趣味を見つけてハマってしまいました。それはコーヒー沼です。私もコーヒーは人並みには飲みますが、これまであまり拘らないようにしてきました。その理由は、いわゆる“沼”が深そうだからです。何度か彼が淹れるコーヒーを飲む機会があり、「焙煎具合が…挽き具合が…チャフ（豆の薄皮）の除去が…」などの話を聞きながら味わっていると、やはりこの沼は底なしだと思った次第です。

ところが最近、その友人が訳あって私にコーヒーミル（コーヒー豆を挽く装置）をプレゼントしてくれました。せっかくの頂きモノを使わない訳にはいきませんので、焙煎済みのコーヒー豆を挽いて味わう生活が始まりました。味もさることながら、豆を挽いた際や挽き立ての粉にお湯を注いだ際には、なんとも芳醇で優雅な香りが部屋中に広がり、間違いなく“沼の入り口”に足を踏み入れてしまったと思うこの頃です。豆の量と挽き具合を目測で行っていると味に再現性が出ず、「RSD 20% 超えか」と思いながら色々な味を味わっています。これから再現性を向上させつつ、色々な豆に挑戦し、“違いが分かる男”を目指して楽しみたいと思います。いつか結論が得られるのか、終わりなき道なのか、機会がありましたらその道の先輩からご助言をお聞かせください。生豆の焙煎をするとキッチンが汚れて妻から怒られそうなので今はそこまではしない予定です。

現時点では私にとってコーヒーは“趣味”と呼ぶほどの段階ではありませんが、好きなこととして少々の楽しみを持って飲むようになりました。好きなことをするのに理由は要らないとは思いますが、コーヒーを好きなこととして楽しむのは元々飲んでいるのであれば実用的ですし、一人で楽しめるのでコロナ禍での楽しみにぴったりです。大人になると、なかなか新しいことに挑む機会も気力も無くなってくると思います。そんな私に新しいこと（趣味）を提案してくれた友人には感謝していますし、大人になっても友人は大切であると改めて実感させ



私生活で新しく始めたコーヒーと研究を一枚にした写真

てくれました。その友人は私をはるかに上回る行動力とアグレッシブさを持っており、見習う点が多いです。私とは研究分野はまったく異なりますが、雑談の中から共同研究に発展したこともあります。彼は私生活のアグレッシブさに加え、研究においても新しい意見やアイデアを次々に提案していますし、実際にご自身で挑んでいます。私生活において趣味だけでなく、新しいことに挑んでみるという姿勢は、研究において新しいことに挑んでみるチャレンジ精神と通じていると思いました。ここ10年、子育てや環境の変化もあり、私生活において新しいことに挑んでこなかった私ですが、研究においては新しいことに挑んでこられたのか、本稿を書きながら、あるいはコーヒーを飲みながら考えるこの頃です。

本エッセイには内容に関連する絵や写真が必要です。私生活で新しく始めたコーヒー沼にハマりつつも、これからは研究において新たなことに挑んで行くことを忘れないよう決意を表した（つもりの）写真を撮りました。研究室にある研究用の一眼レフで撮影しましたが、なかなか思うように撮れず、色々とモードや絞り値を変更して撮影しました。そして写真撮影が趣味の人の気持ちも少し分かった気がしました。写真撮影の趣味も面白そうですが、何を撮影すれば良いのか…。（「なんでも良いのだよ」という声が聞こえてきそうです）

さて、次のリレー走者は麻布大学獣医学部の杉田和俊先生に依頼いたしました。杉田先生とはガスクロマトグラフィー研究懇談会でご一緒させていただいています。分析化学会の中で獣医学部というのは珍しいと思い、面白いエッセイを書いて頂けるのではないかと勝手に思い依頼したところ、快くお引き受けいただきました。ありがとうございました。

〔山梨大学総合研究部 植田郁生〕